



認知症家族教室



今月の認知症家族教室は『認知症の方の接し方、ケア方法』と題し、認知症サポート医の 井上医師と東5階認知症治療病棟の森本大地ケアワーカーより講義があり、14名のご参加をいただきました。

はじめに、井上医師より「認知症の症状は、時間や場所、人が分からない・言葉が出てこない、計画を立てて物事を実行できないなどの中核症状と、それに本人の性格や環境などの要因がからみ合い出現する行動・心理症状（BPSD）があり、不安感・暴力・自信喪失・徘徊などの症状がBPSDに当たります。BPSDは、薬物療法・ケアの仕方・福祉サービスを利用するなどに対応をすることができます。」とスライドで解りやすくご説明いただきました。

次に、森本さんより「接し方によって症状を和らげることで長期にわたってその人らしい生活が送れます。」とのお話の後、『財布を盗られたと訴える』『徘徊をする』『入浴を嫌がる』『暴力をふるう』などの場面で、本人の気持ちを理解することの重要性と、気持ちに寄り添った適切な対応方法を説明していただきました。そして、「認知症になるとできないことは増えるが、接し方によってはできることも少なくない、出来ることをみつけて本人にやっていただくことが大切です。」との言葉に、ご参加の皆さんはうなずきながら聞いておられました。

最後に、参加者のお一人が、「面会時に看護師さんが『今は笑顔で接してあげて下さい』と言ってくださり、（いつも以上に）穏やかに話かけたら、本人も笑顔になり、ほっとしました」と体験談を語られました。また、質疑応答では、「退院後のケア」についての質問があり、ケアマネジャーより、認知症リハビリのサービスを実施している施設の案内をさせていただきました。

認知症の方の気持ちを考え接することは、頭では理解していても難しいと感じる方もおられるのではないのでしょうか。

家族教室は、介護者の方々が気軽に専門家に相談できる場であり、介護の悩みを共感しあえる場でもあります。教室に参加していただくことで、介護をされている皆さんの気持ちの負担が少しでも軽減できればと思います。